

1月～3月

休眠期

整枝・剪定

①深耕

幼木では植穴の周囲を毎年、順次、掘広げて有機物を埋め込む。成木も適宜タコツボ深耕し有機物を埋める。いずれも深耕部の排水には注意。

②整枝・剪定

幼木では整枝を主体に、若木では日光や風が樹冠までよく通るよう心抜きをおこなう。10年生からは側枝の更新と樹冠の縮小に注意。

③穂木の採取

2月20日頃が適期、衰弱樹や病虫害樹からは採らないように注意。2～3日陰干した後、ビニールに包み冷蔵庫で保存する。

④クスサン対策

目通しの高さに産卵するので、卵を集めて必ず焼却する。掻き落としだけでは効果がない。

⑤春植苗木定植

遅くとも彼岸までに終わるようにする。乾燥防止のため根元にワラやモミガラを敷く。

4月

発芽期

①キクイムシ防除

幼木で凍害を受けたものに多発する。中・下旬の2回、10日間隔程度で防除剤を樹幹(1.5mまで)及び主枝に丁寧に塗布する。

②接ぎ木

ソメイヨシノ桜の満開から半月後(4月下旬)が適期。好天で暖かい日に行うとよい。シバグリ台に継ぐ場合は直径3cm程度の若木がよく、地上0.3～0.5m程度の高接ぎにする。

③クリタマバチ防除

防除剤を発芽直前に散布する。



クリタマバチの虫えい

5月

展葉期

①クスサン対策

幼虫が分散しない上旬までに、枝を切り取り焼却する。



クスサンの幼虫

②接ぎ木後の管理

接ぎ木後は時々見回り、台芽掻きや誘因を行う。接ぎ木テープは食い込まないように早めに取り除く。

③幼木への追肥

中下旬にチッソとカリを年間施用量の1/2程度施す。

④下草刈

乾燥期となるので、草が伸びすぎないうちに刈り取り、敷草とする。幼木は特に注意する。

6月

開花期

下草刈

開花

①排水対策

くりは湿害に特に弱いので、梅雨前に十分な排水措置をする。

②クリタマバチ対策

被害園では上旬にチッソを追肥すると、成虫が新芽に産卵を終える7月中旬以降も新芽が形成され、翌年の被害が軽減される。

③クリイガアブラムシ防除

開花後の穂の落果(早生種の生理落果と同時期のため注意)青エミ果の多い園では必ず励行すること。



クリの開花